



産直市場アンケート調査結果の概要



平成 27 年度
松江市産業観光部農政課

1 調査趣旨

平成25年、松江市は観光振興と地域活性化に向け、新たな産直市場の検討を開始しました。当時は100円市や無人市という形で、地域ごとに小さな店舗を設け、自家消費を目的として栽培した野菜や、規格外品など卸売り市場に出荷できない生産品を販売していたものが、農業者の自立を目的としたJA設置の大型産直市や道の駅に併設された産直コーナーに徐々に集約されていく時期でもありました。新鮮で安心できる生産品を求める消費者の声の高まりと、農業の新たな形を求め、全国的にも農産物直売所を備え付けた施設が乱立する傾向にありました。

その後全国的には、農業者の高齢化による生産量の停滞やキャパシティを超えた施設数など様々な原因から産直施設は淘汰され、施設の数自体は減少しました。一方、松江市においては、新鮮な地場産野菜などを求める声は依然として根強く、スーパーマーケットやコンビニエンスストア内に設けられた産直コーナー（インショップ）を中心に販売量は、やや右肩上がりの傾向が続いています。

しかし、松江市内の農林水産物の生産量が増えている訳ではなく、店舗によっては品薄となる時間帯が発生しています。一方、どうしても季節ごとに生産される作物は品目が偏り、供給過多となり処分される生産品も少なくないなど矛盾もあり、出荷者にとって生産イコール収入という構図に単純になりきれていない現状があります。

新たな大型産直市場を設置するためには、克服しなければならない課題があり、特に多種多様な生産品を市内全域に時間を問わず配置することは消費拡大に向け急務と言えます。同時に、産直市場を利用する消費者ニーズの反映による改革を行うことで消費者の確保・拡大を図っていくことも必要とされます。それだけでなく、出荷者である農業者と生産品の確保に向けて、産直市場を通じた農業経営の改善とそれによる担い手の確保、後継者の育成を図って行かなければなりません。

今回の調査は出荷者である生産者の経営状態を把握するとともに、産直市場への要望をとりまとめ、生産拡大に必要な要素を特定することとし、また、消費者が求める産直市場の形を明確にし、出荷者と情報共有を図ることで更なる販路拡大に向けた方向性を導き出す事を目的とします。

2 調査方法

出荷者・消費者毎に作成した調査票により行う。

出荷者アンケートはJAが毎月行っている「ふれあい訪問日」に対象者あてに配布し、最寄りのJAグリーンショップ、JAしまねくにびき地区本部に提出する。

消費者アンケートはJAグリーンショップつだ、かわつ両店頭にて聞き取りにて行う。

3 調査期間

出荷者アンケート	1月12日(火)～15日(金)にかけて配布、1月末までに回収。
消費者アンケート	1月23日(土) 8時30分～12時 JAグリーンつだ JAグリーンかわつにて実施。

4 回収数(サンプル数)

出荷者アンケート	出荷者協議会会員1230件中、回収数327件 回収率26.6%
消費者アンケート	JAグリーンつだ 103件 JAグリーンかわつ 98件 計201件

5 調査結果の解説

(1) 消費者アンケート

消費者の属性

JAグリーンつだ・かわつ店利用者については、60代が35.8%、70代以上が30.8%と高齢者が大半を占めており、女性の割合が80.1%となっている。2店舗ともほぼ同傾向といえる。

産直市の利用頻度について

調査実施店の来店数は、「ほとんど毎日」が12.4%、「2～3日に一度」が25.9%、「1週間に1度」が42.8%であり、合計すると全体の81.1%の方が日常的に産直市場を利用していることが分かる。

加えて、「月に数回」と答えた利用者が17.4%と、頻度は低いが確実に産直市が利用施設の利用者に入っていることがわかる。

「あまり行かない」と答えた方は1.5%で両店舗とも低い数値にとどまった。

産直市の利用者のほとんどが固定客であり、販売員との会話などからニーズを把握し、それに応えることで更なる定着化・口コミによる顧客の拡大につながる可能性が高いと言える。

買い物の時間帯

「朝一番」「午前中」と答えた利用者が84.1%を占め、ほとんどの利用者が午前中のうちに買い物を済ませていることが分かる。出荷者も朝のうちに商品を店舗に持ち込む傾向があり、朝のうちに出荷されるものの中から、より良いものを選びたいとする意識が大きく影響しているものと思われる。逆に午後のお荷物は極端に少なくなるので、売り場にも空きスペースが多くみられる。来店する時間が遅ければ、いわゆる残り物しかないという心理の現れではないのかと推測できる。

また、前項で触れたように利用者のほとんどが高齢で固定客であるということは、見方によれば日中拘束される勤め人はあまり利用していないということであり、仕事帰りに立ち寄る利用者が極端に少ないということも言える。加えて、インショップを除いて肉や魚などは配置していないことから、夕食のおかずを目的とした消費者の選択肢からは外れているという事が言えるかもしれない。

産直市までの交通手段

自家用車で来店が 87.1%と最も多く、徒歩・自転車・公共交通機関の利用は併せても 12.9%と低い。これは郊外型の店舗であることや、基本的に自家用車を利用することの多い松江の現状とも関係するが、販売されているもののほとんどが野菜丸ごと一個単位なので、商品が重いということも考えられる。駐車場の狭いとの指摘もあり、顧客の確保の視点から検討すべき課題である。

1 回のお買い物で購入する金額

利用者の購入金額は 500 円から 1,000 円とする意見が最も多く 35.3%、次いで多い 1,000 円から 1,500 円が 33.3%、1,500 円から 3,000 円買うと答えた方が 22.9%であった。1,000 円を超えれば優良といわれる産直市で、高い結果だと言える。

利用者は何を意識して産直市場を訪れているのか

問 5 で品質か価格かという調査を行ったところ「高くても良いものを選ぶ」とした声が 46.8%と最も多かったが、「どちらかと言えば安いものを選ぶ」と価格を重視する声も 45.3%と二分する結果となった。産直市場に出荷される商品は「新鮮・安心・高品質」だという意識と期待の声であり、価格についても流通の手数料分安価で出店されているため消費者ニーズに十分応えていると言える。「良いものを安く売っている」のが産直市場であり、産直市場を利用する消費者が求める特徴だと言えるのではないかと。「積極的に安いものを選ぶ」とする回答はわずか 4%であった。

安全性を求める声は多く栽培履歴について「知りたい」「どちらかといえば知りたい」という声が 80.1%と高い水準を示した。特にグリーンかわつでは 87.8%の消費者が高い関心を示している。消費者として農薬の使用や栽培方法を知る機会はほとんどなく、食の安心を求める消費者にとっては非常に興味が高いことを示している。表示が可能ならば、スーパーマーケットなどとの差別化を図るうえでは重要な要素であり、農薬の使用履歴等表示方法や店員の説明内容なども含めて検討が必要だと考えられる。

この産直市の不満な点は

「買いたい時間帯に売り切れになっていることが多い」との意見が 34.3%であった。これは、それぞれの出荷者が自由に商品を持ち込むため、朝の時間帯に搬入が集中しており、昼過ぎには品薄状態が起こることからの結果だと思われる。消費者は購入意欲があっても商品が無いため産直市場を訪れず、出荷者はもっと売りたいのに午後は客数が減少するので出荷できず処分する生産品が減らない。消費者・出荷者は互いの意に全く反した現状にあるといえる。

現状のまま、夕方向けに出荷を行うとしても「夕方には商品が無い」ことが常識となっている消費者は産直市場を訪れることはない。仕事帰りに野菜を買おうと思っても店舗の選択肢から産直市場は外れることとなる。夕方の商品の充実、新たな客層の拡大にむけても検討すべき課題である。

産直市に（もっと）あれば良いもの

「料理のレシピ」が最も多く 27.9%、次いで「惣菜などの加工品」「松江市以外の県内で生産された野菜・果物」が 18.9%という結果であった。農家では常識となっている美味しい食べ方や調理方法でも消費者から見れば斬新で新鮮に映ることも多々あり、販売に直結する要素だと考えられる。スーパーとの差別化を図ることにもつながり、野菜に詳しい農家の声を消費者に届ける産直市ならではの機会と言える。料理のレシピ、惣菜などの加工品を求める声は、生鮮野菜が売り場の大半を占めているため、調理せずにおかずになるものは少ない産直市場だからこそ高まる消費者の声だと考えられる。

島根県内で生産された野菜・果物、特に特産品については現地に行かないと購入できないものも少なくない。それはそれで一種の魅力だと言えるが、県内特産品を流通することで客層の拡大（例えば観光客）に繋がると考えられる。また、市域外の商品を入れるだけでなく、相互に流通を図ることができれば効果は全県に拡大する。

また、懸念されている午後からの品薄状態の解消にもつながり、販売促進に大きな効果があると思われる。

その他、具体的には以下のような品目が上がっている。

○野菜

西洋野菜・たけのこ・低臭にんにく・果物・かんきつ類・旬の品・珍しい野菜

○加工食品

ジャム・地元の野菜を使った加工品・漬物・酢の物・塩こうじ・惣菜類・保存品・半加工品・お菓子・お弁当

○その他

おさかな・肉・一般食品・牛乳・無洗米・花・お土産品・ペットボトルの蓋回収・配達してほしい

などの意見が寄せられた。

産直市場の満足度は

鮮度・品揃え・雰囲気・営業時間の4項目について調査を行った。結果は以下のとおり（%表記）

鮮度	大いに満足 24.9	満足 52.7	普通 18.9	やや不満 0.5	不満 0	無回答 3.0
品揃え	大いに満足 6.5	満足 41.3	普通 40.3	やや不満 7.0	不満 1.0	無回答 4.0
雰囲気	大いに満足 14.4	満足 41.3	普通 40.3	やや不満 1.0	不満 0	無回答 3.0
営業時間	大いに満足 8.0	満足 36.8	普通 45.3	やや不満 6.0	不満 0.5	無回答 3.5

(2) 出荷者アンケート

出荷者の年齢

島根県の農業者の平均年齢は70.2歳(平成25年)だが回答いただいた327件のうち最も多かった年代は70代以上との回答であり、全体の52.3%に当たる。60歳までは会社に勤め、定年退職後農業を本格的に始めるといった標準的?な流れが主流のようだとの推測できる。20代の若さで就農を志す方もいないわけではないが、大規模農家の出身者以外は専業農家で生計を立てられず断念するケースもあり、日本の農業を取り巻く環境は松江でも例外ではない。

農業経営の実態

回答いただいた327件のうち兼業農家と回答した出荷者は216件で全体の66.1%に相当する。そのうち日常の労働力が3人未満と回答した方は94.4%で平均耕地面積は62.96aであった。日常の労働力が3人以上の出荷者の平均耕地面積は253.19aであることから出荷している方の大半が比較的小規模な農業経営であることが分かる。

農地の形態は水田が最も多く165.9haで全体の65.8%を占めており、稲作中心の経営であることが伺える。次いで畑が79.5haで31.5%、施設が6.7haで2.7%という順であった。パイプハウスなどを利用した施設栽培を行っている出荷者は101件で全体の30.9%に留まっている。

農業所得

農業所得で水稻の販売金額が最も多いと答えた出荷者が全体の32.7%を占めている。現在、玄米の販売はJAグリーンなど限られた店舗で行われているだけで、産直市場で米が売られている実感を持った消費者は多くはないと思われる。販売方法も大きな米櫃から量り売りを行っているため、消費者が生産者を選ぶことはできず、産直市場の特徴である「生産者の顔の見える商品」とは言い難い。

その他販売金額の高い生産品は露地野菜30.6%、果樹9.6%という結果であった。

産直市場の利用

出荷する頻度は、ほぼ毎日が10.9%、毎週1度は出荷する人が48.9%と半数以上の出荷者が定期的に出荷していることが分かる。

出荷を始めてからの年数は平均して9.2年と長く続けられている傾向がみられる。

出荷する店舗で最も多かったのが「JAグリーンかわつ」で53.3%の方が出荷している。「JAグリーンつだ」48.9%と合わせれば、ほとんどの出荷者がどちらかの店舗へ出荷していることとなる。インショップでは「Aコープたまゆ」が13.8%と最も高く、「みしまや田和山」11.9%、「みしまや春日」11.0%と続く。

産直市場の経済的効果

産直市での年間売上額は平均で約 63.2 万円だが、20 万円未満の出荷者が全体の 45.2%を占めており、平均売上額も 10 万円を下回っている。約半数の出荷者にとっては産直市が家計に与える効果は薄いことがわかる。一方、年間 100 万円以上の売上実績のある出荷者は全体の 19%を占めており、平均売上額は 200 万円を超えている。

年間 100 万円以上の売上実績のある出荷者は全員が複数店舗に出荷しており、そのうち 5 店舗以上に出荷している方は 43.4%と大きな数字が示されている。年間売上額に比例して出荷する店舗数も多い傾向が伺える。全体では 2 件以上の複数店舗に出荷している方が 60.0%と大半を占めている。

出荷者が感じている産直市場のメリット・デメリット

出荷者の皆さんが感じている産直市場のメリットは、「少量でも出荷できると」答えた方が最も多く 85.3%、次いで「自分で価格が付けられる」79.8%、「出荷時間帯の制限がない」56.0%と自分の生産できる範囲内で出荷できる事に多くの出荷者が共感を持っていることが分かる。また、デメリットについては「陳列スペースが狭い」という意見が最も多く 32.1%、「何が売れているかなど情報が少ない」20.5%と店側の対応を求める声が多くあげられた。

また、「質が高くないと売れない」19.9%、「生産（出荷）が偏り、売れ残りが多い」18.3%と品質を上げるための技術の向上や広域的な生産計画の必要性など、産直市場を運営する立ち位置で検討していかなければならない課題について指摘されている。

産直市場の需要が増えた場合に生産拡大・品目の増加が可能か

生産拡大・生産品目の増加が可能と答えた出荷者は全体の 29%と低いが、その 7.8%が年間売上 100 万円以上の大規模な経営を行っている方であった。そして、生産拡大に必要なものは、新品種栽培のための研修など農業指導の充実 46.1%、後継者の確保 32.6%、パイプハウスなど施設の整備 31.5%、農地の拡大 16.9%といった結果であった。一方、生産拡大が難しいと答えた出荷者のうち「後継者がいない」「廃業を考えている」といった理由が計 61.0%と深刻な数字が出た。ここ十年で島根県内の農業者は約半数に減少しており、松江市でもここ 10 年間で約 750 軒の農家が離農していることから、早急な方針と対策の構築が求められる。さらに、生産拡大が難しい理由として「現状で満足している」が 51.4%と高い数値を示していることも特徴として挙げられる。

夕方出荷と配送サービスについて

現状の産直市場では午後から夕方にかけて品薄な状態が続いており、消費者が店舗を訪れる時間帯をみても明らかである。夕方に出荷が可能とする方は無回答も含め全体の 25%と低い数値が示された。夕方出荷できない理由については「時間がない」が最も多く 28.0%、次いで「夕方は（高齢のため）運転できない」20.0%、などであった。一方、配送代行サービスについて利用を検討したいと答えたのは 40.1%であり、4 店舗以上に出荷している出荷者が 45.8%ということを考えれば決して低い数値ではない。また、年間売上 100 万円を超える出荷者の約半数が利用を検討したいと答えていることも特筆すべき内容である。

配送代行サービスについても詳細を提示していないため漠然としたものであるが、品薄状態の解決や売れ残りの削減につながる事が予想され、少なからず効果が期待されるものであり、実現に向けた検討が求められる。

産直市場、施設・運営への要望

売り場面積の拡大を求める声が 32.7%と高く、次いで売れ筋商品や店舗ごとの販売状況など情報の提供 26.6%、売れ残りを少なくしてほしい 20.8%と消費者アンケートと同様に店舗側の努力を求める声が高かった。売り場面積については、現在では出荷者が好きな時間に商品を持ち込み、自分で陳列を行っており、どうしても出荷する時間が朝に集中するためだと考えられ、午後から品薄状態が発生することからも、限られたスペースでの陳列方法や、出荷者ごとの出荷時間指定など一定のルール作りが必要だと考えられ、店舗側の検討が求められる。

各店舗におけるタイムリーな販売状況が生産者に伝わりにくい現状は、時間帯によって品薄状態をまねくこととも関係することから改善を図っていく必要があると考える。現在でも店側からの情報提供は行われているものの、品薄状態の解消にはつながっておらず、さらに詳細でスピーディーな情報の開示にむけてシステムの再構築も含めて検討が必要だと考えられる。

売れ残りを減らすことはポップ技術などの向上やキャンペーンの開催、宣伝などによる集客、販売員の実力アップなど店舗側の総合的な対応が必要となることは間違いないが、出荷物の品質向上や出荷時間など出荷者の努力も大いに関係する。それぞれの店舗において出荷者とともに販売の更なる促進に向けた検討が必要だと考える。

まとめ・総括

今回のアンケート調査を通じて消費者・出荷者ともに産直市場に対する期待が大変大きいことが再認識できたと感じています。言うまでもなく、消費者は品揃え・品質・価格に対する意識が高く、もっと利用しやすい産直市場を求める声が多く、それぞれの理想とする産直市場のあり方を提案する姿勢が強く表れたものです。一方、出荷者の皆さんからは、高齢化・後継者不足という厳しい現実はあるものの、生産活動の中に占める産直市場のウェイトを高めるための方向性を示しているように受け止めることができます。

国内の農業事情が示す、出荷者の抱える課題と消費者の求める課題にいかに対応していくのか、地域農業の将来に大きく影響を与えるもので、出荷者・消費者はもちろんのこと、店舗を経営・運営するJAと私たち行政が情報を共有するなかで一体となって取り組んでいかなければならないと強く感じています。産直市場が松江市の農業経営の活性化に向けたキーパーツであり、それにふさわしい期待が寄せられていることを踏まえ、今後の取組を行っていきたいと考えています。

産直市場アンケート（消費者用）

集計結果

有効回答数	201
-------	-----

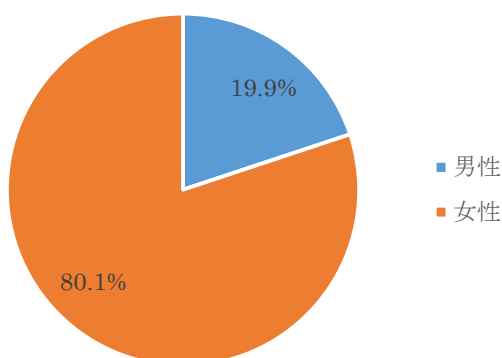
●性別

男性	40	19.9%
女性	161	80.1%

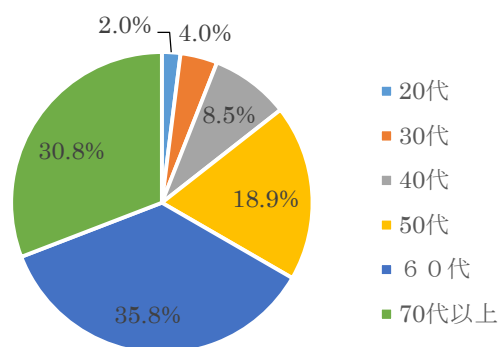
●年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
4	8	17	38	72	62
2.0%	4.0%	8.5%	18.9%	35.8%	30.8%

●性別



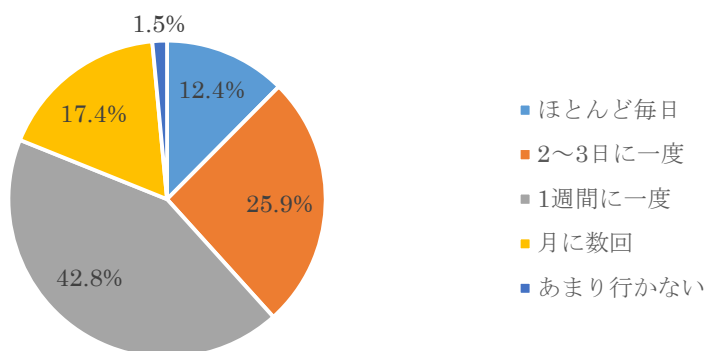
●年齢



●問1:産直市は、どれくらいの頻度で利用しますか

ほとんど毎日	25	12.4%
2~3日に一度	52	25.9%
1週間に一度	86	42.8%
月に数回	35	17.4%
あまり行かない	3	1.5%

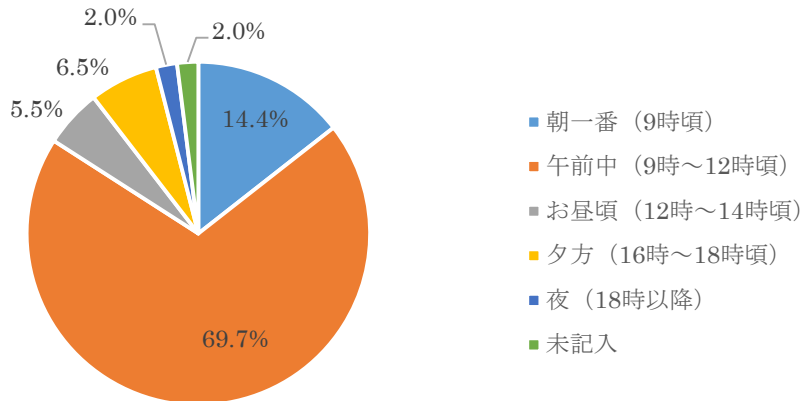
問1 産直市の利用頻度



●問2:食品のお買い物は何時ぐらいにされることが多いですか

朝一番(9時頃)	29	14.4%
午前中(9時～12時頃)	140	69.7%
お昼頃(12時～14時頃)	11	5.5%
夕方(16時～18時頃)	13	6.5%
夜(18時以降)	4	2.0%
未記入	4	2.0%

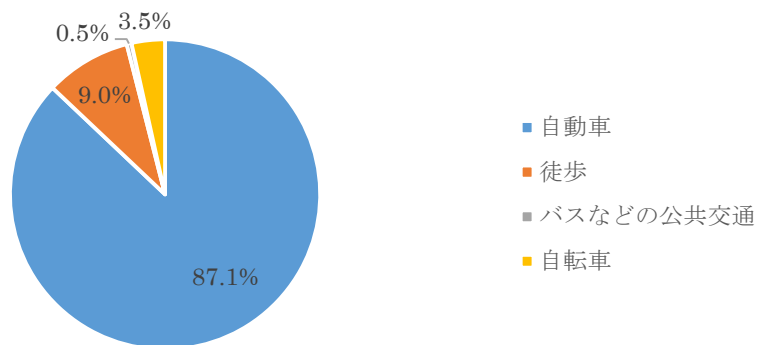
問2 お買物の時間帯



●問3:産直市までの移動手段を教えてください

自動車	175	87.1%
徒歩	18	9.0%
バスなどの公共交通	1	0.5%
自転車	7	3.5%

問3 移動手段

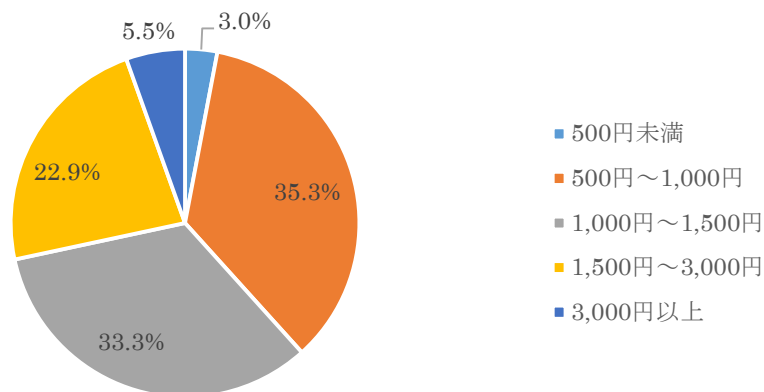


●問4:産直市では一回のお買い物で平均してど

のくらい買われますか

500 円未満	6	3.0%
500 円～1,000 円	71	35.3%
1,000 円～1,500 円	67	33.3%
1,500 円～3,000 円	46	22.9%
3,000 円以上	11	5.5%

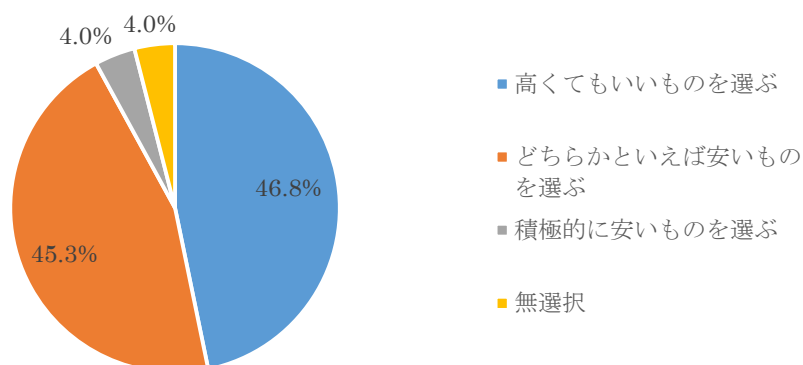
問 4 一回のお買物の価格



●問 5: 産直市や加工品を購入する際どのようなものを選びますか

高くてもいいものを選ぶ	94	46.8%
どちらかといえば安いものを選ぶ	91	45.3%
積極的に安いものを選ぶ	8	4.0%
無選択	8	4.0%

問 5 購入する際どのようなものを選びますか

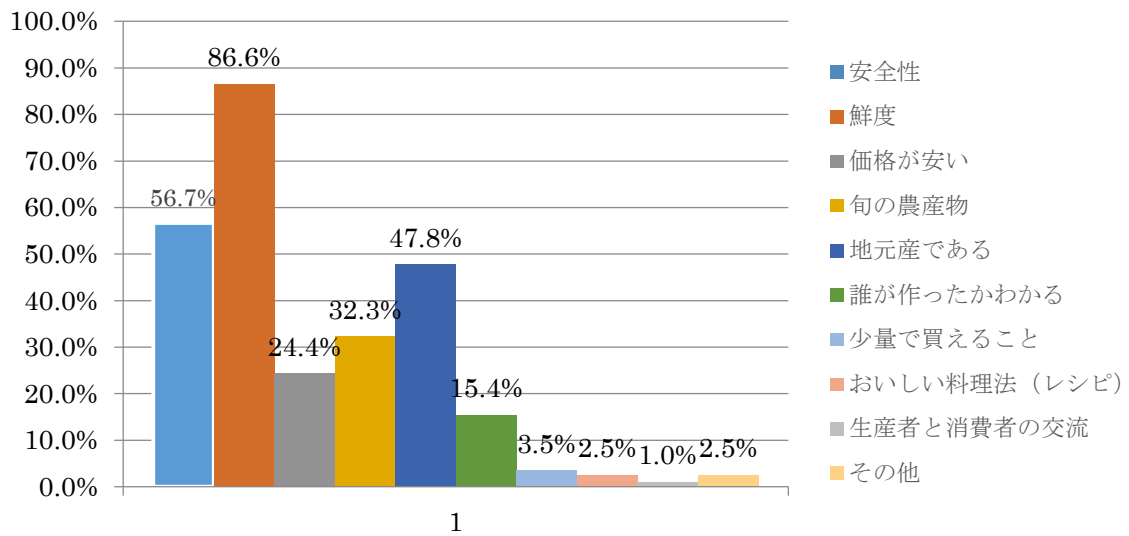


問 6: あなたは産直市の農産物に何を求めますか

(3 つまでお答えください)

安全性	114	56.7%
鮮度	174	86.6%
価格が安い	49	24.4%
旬の農産物	65	32.3%
地元産である	96	47.8%
誰が作ったかわかる	31	15.4%
少量で買えること	7	3.5%
おいしい料理法(レシピ)	5	2.5%
生産者と消費者の交流	2	1.0%
その他	5	2.5%

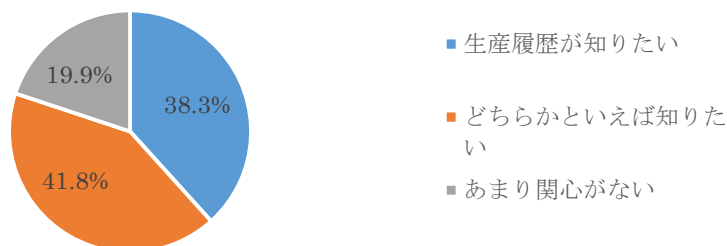
問 6 産直市の農産物に何を求めるか



問 7: 産直市で売られている農産物の生産履歴についてどうお考えですか

生産履歴が知りたい	77	38.3%
どちらかといえば知りたい	84	41.8%
あまり関心がない	40	19.9%

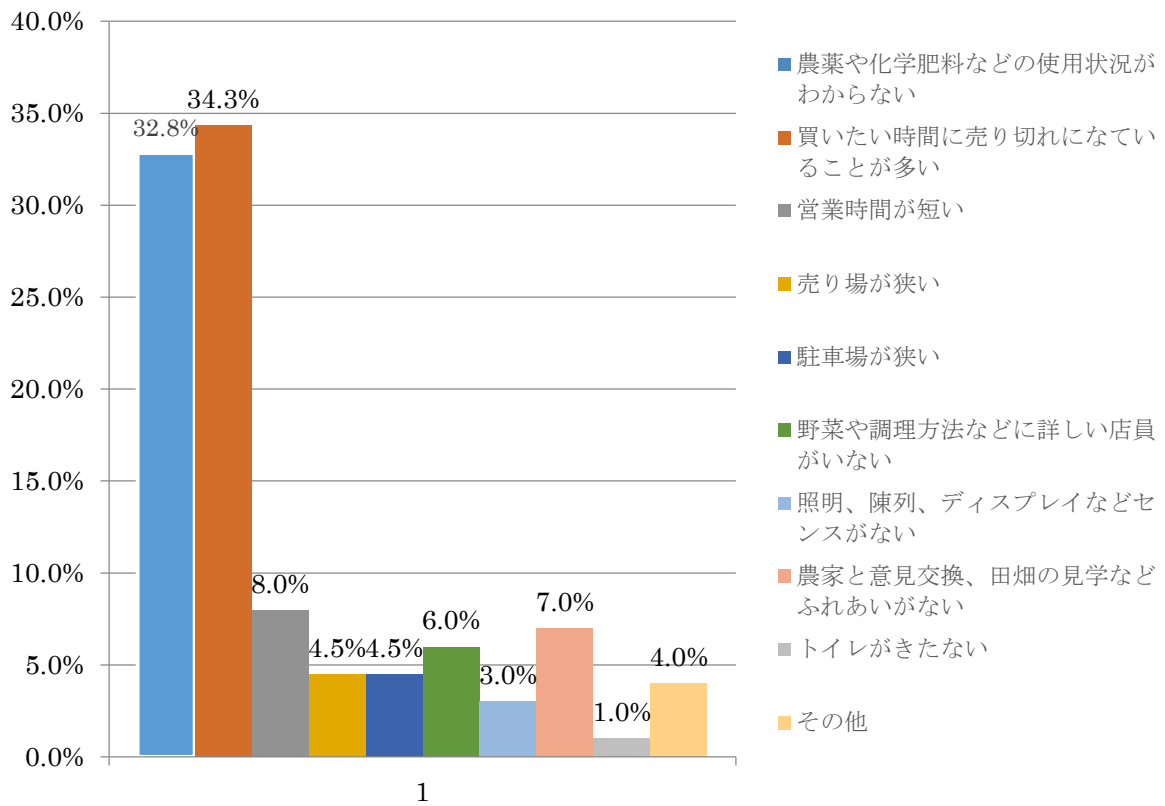
問 7 生産履歴について



問 8: 産直市について不満な点はどこですか(当てはまるものはいくつでも)

農薬や化学肥料などの使用状況がわからない	66	32.8%
買いたい時間に売り切れになっていることが多い	69	34.3%
営業時間が短い	16	8.0%
売り場が狭い	9	4.5%
駐車場が狭い	9	4.5%
野菜や調理方法などに詳しい店員がいない	12	6.0%
照明、陳列、ディスプレイなどセンスがない	6	3.0%
農家と意見交換、田畑の見学などふれあいがない	14	7.0%
トイレがきたない	2	1.0%
その他	8	4.0%

問8 産直市について不満な点

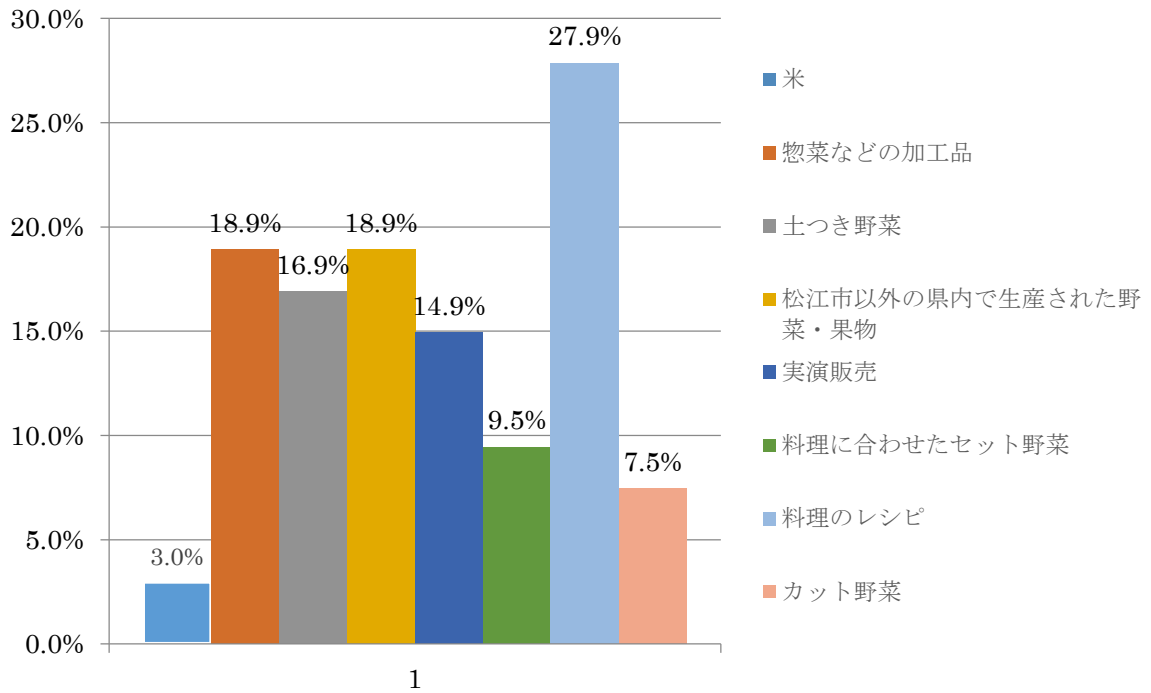


問9: 産直市に(もっと)あれば良いと思うものは何ですか(当てはまるものはい

くつでも)

米	6	3.0%
惣菜などの加工品	38	18.9%
土つき野菜	34	16.9%
松江市以外の県内で生産された野菜・果物	38	18.9%
実演販売	30	14.9%
料理に合わせたセット野菜	19	9.5%
料理のレシピ	56	27.9%
カット野菜	15	7.5%

問9 産直市に（もっと）あれば良いと思うもの



問10: 産直市にあれば良いと思う野菜・果物・加工食品があれば具体的にお答えください(いくつでも)

【かわつ】

- ・注文ができる商品が増えると良い(30代・男性)
- ・低臭にんにく(20代・女性)
- ・キムチ(40代・女性)
- ・野菜スープの販売、売れ残りの野菜を使用して(安価にさせていただくとよりいいです)(40代・女性)
- ・果物(40代・女性)
- ・タケノコ、ジャム(40代・女性)
- ・洋野菜(ズッキーニ、ルッコラなど)洋風料理に使えるもの(50代・女性)
- ・地元の野菜を使った加工品、漬物、酢の物など(50代・女性)
- ・かき(50代・女性)
- ・惣菜類(60代・女性)
- ・ジャム(60代・女性)
- ・近場の物が種類が多いほうが良いと思う(60代・女性)
- ・都会(県外)に島根ならではのみやげ品など(60代・女性)
- ・新鮮なものをたくさん出品してください(70代以上・女性)
- ・旬なものあれば良い(70代以上・女性)
- ・島根県産(特に石見部)、野菜、かんきつ類(70代以上・女性)
- ・今の状態でよい(70代以上・女性)
- ・保存品(漬物等)、半加工品(少し手を加えれば料理ができるもの)(50代・女性)

【つだ】

- ・同じ野菜は一か所に陳列(20代・男性)
- ・おさかな、肉、加工品、一般食品(70代以上・男性)
- ・牛乳がほしい(70代以上・男性)
- ・塩こうじ(20代・女性)
- ・旬の品(40代・女性)
- ・もう少し干物のお魚など種類を増やしてほしい。お漬物の種類を増やしてほしい(40代・女性)
- ・果物(50代・女性)
- ・無洗米(地元のもの)(50代・女性)
- ・珍しい野菜(50代・女性)
- ・お菓子(60代・女性)
- ・花がないときがある(60代・女性)
- ・種類(60代・女性)
- ・お弁当(60代・女性)
- ・バナナ、果物(60代・女性)
- ・珍しい品を使ってみたいので少量でも入れてほしい(60代・女性)
- ・話題性のある品(60代・女性)
- ・ペットボトルのふたの回収がなくなった。またはじめてほしい(70代以上・女性)
- ・配達してほしい。1kgから精米してほしい(70代以上・女性)

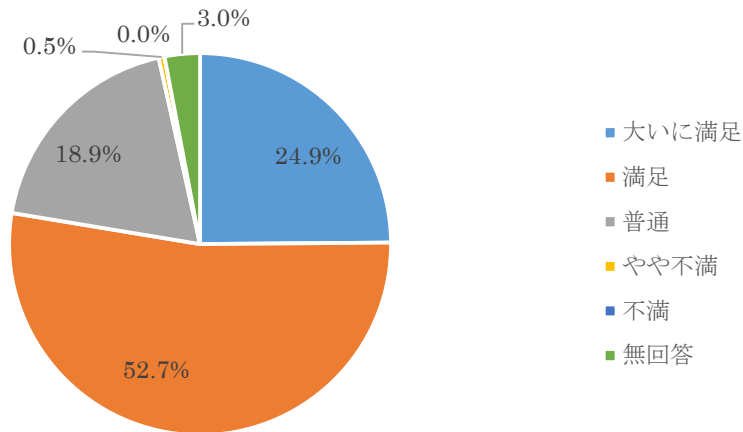
問 11:この産直市の満足度を教えてく

ださい

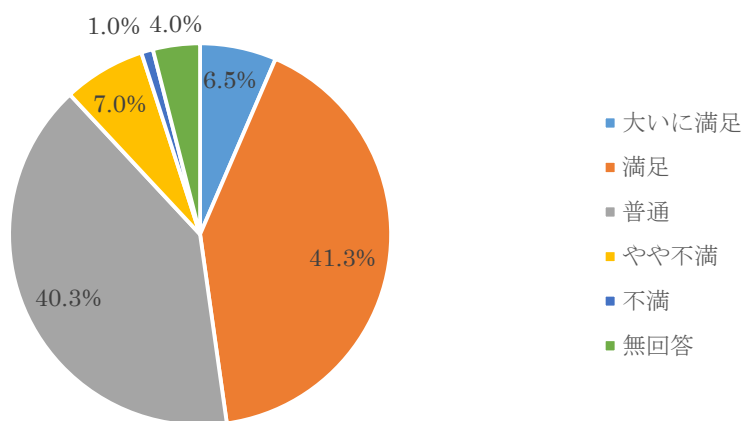
回答数	大いに満足	満足	普通	やや不満	不満	無回答
鮮度	50	106	38	1	0	6
品揃え	13	83	81	14	2	8
雰囲気	29	83	81	2	0	6
営業時間	16	74	91	12	1	7

率	大いに満足	満足	普通	やや不満	不満	無回答
鮮度	24.9%	52.7%	18.9%	0.5%	0.0%	3.0%
品揃え	6.5%	41.3%	40.3%	7.0%	1.0%	4.0%
雰囲気	14.4%	41.3%	40.3%	1.0%	0.0%	3.0%
営業時間	8.0%	36.8%	45.3%	6.0%	0.5%	3.5%

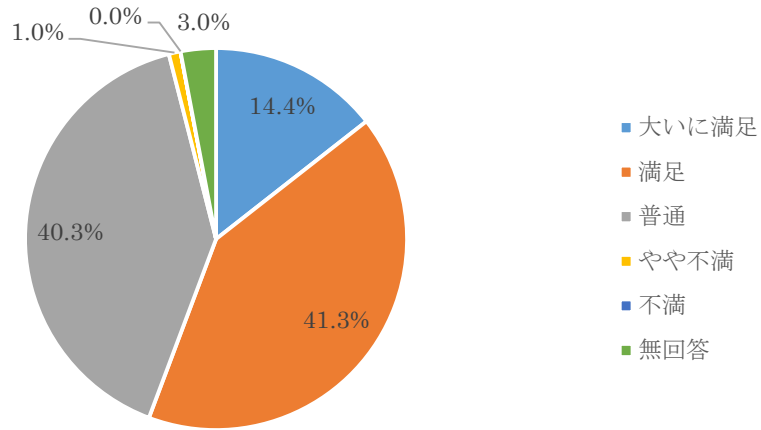
問 1 1 満足度 【鮮度】



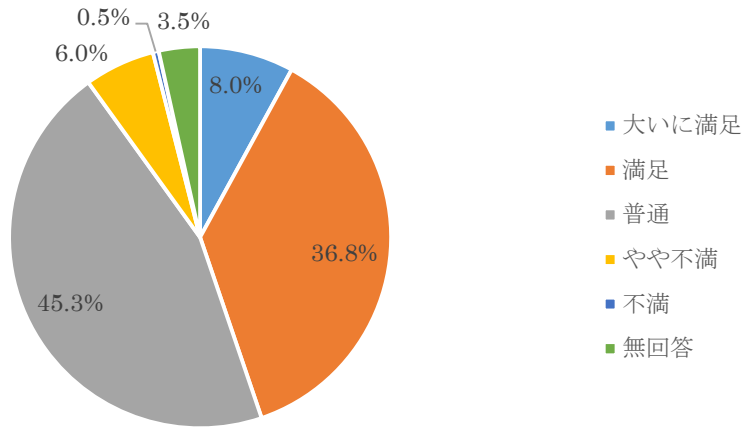
問 1 1 満足度 【品揃え】



問 1 1 満足度 【雰囲気】



問 1 1 満足度 【営業時間】



産直市場アンケート（出荷者用）

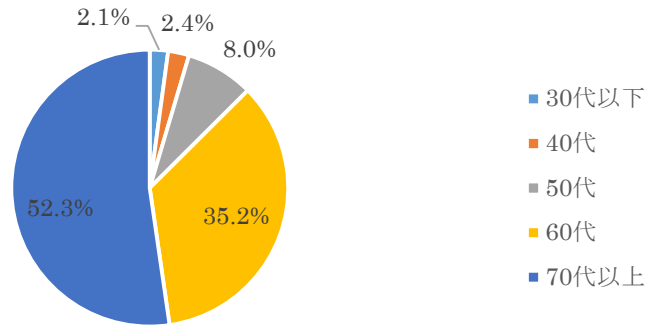
集計結果

回答いただいた件数: 件

●問1あなたの年齢を教えてください

年代別	30代以下	40代	50代	60代	70代以上
	7	8	26	115	171
	2.1%	2.4%	8.0%	35.2%	52.3%

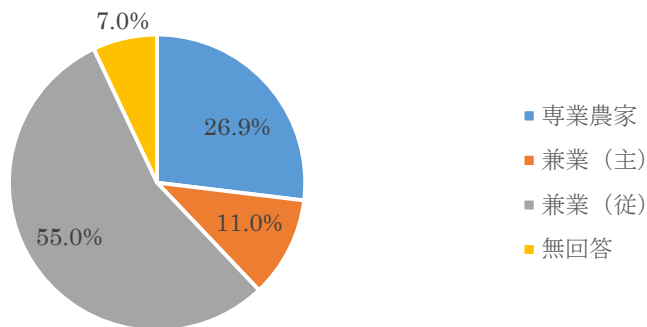
問1 あなたの年齢



●問2以下のいずれに該当しますか？

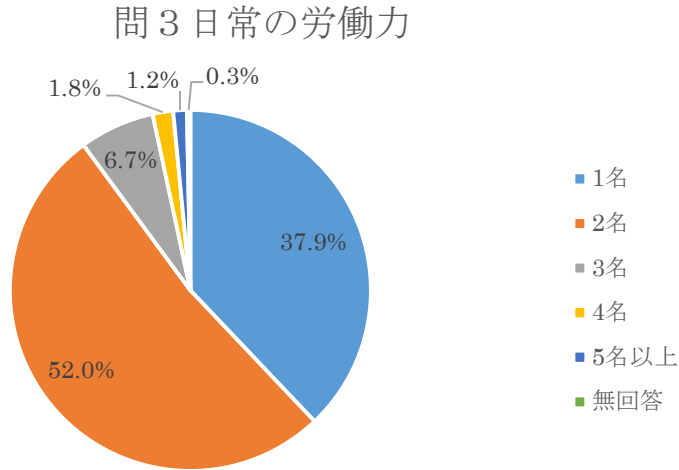
農業形態	専業農家	兼業(主)	兼業(従)	無回答
	88	36	180	23
	26.9%	11.0%	55.0%	7.0%

問2 農業形態



●問3日常の作業での労働力は何名ですか？

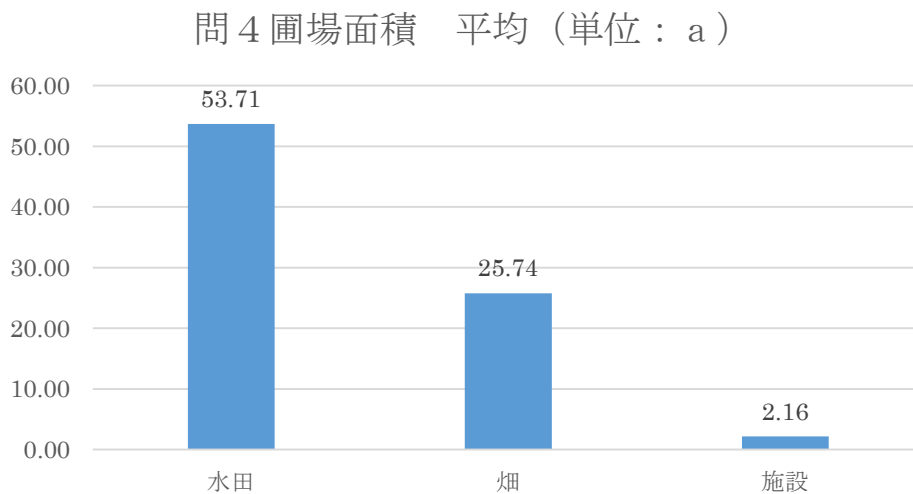
1名	2名	3名	4名	5名以上	無回答
124	170	22	6	4	1
37.9%	52.0%	6.7%	1.8%	1.2%	0.3%



●問4圃場面積についてお答えください

圃場 無回答 18
有効回答件数 309 件

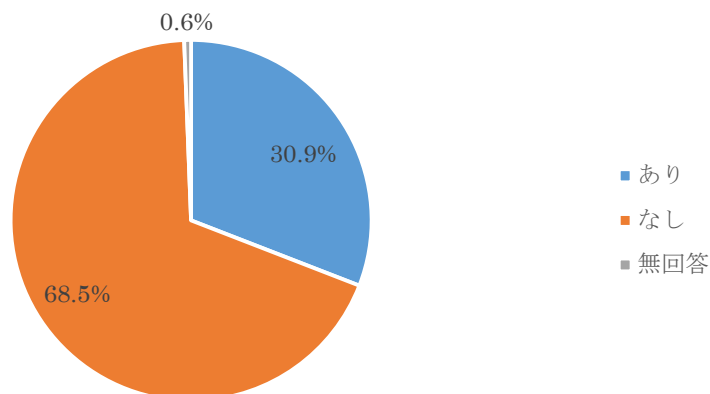
	水田	畑	施設
圃場面積(単位:a)	16595.2	7954.25	666.6
平均(単位:a)	53.71	25.74	2.16



●問5ハウス栽培の有無についてお答えください

	あり	なし	無回答
件数	101	224	2
割合	30.9%	68.5%	0.6%

問5 ハウス栽培の有無



●問6現在の農業所得で販売金額の多い順に3つまでお答えください。

販売金額順位 無回答 3
有効回答件数 324 件

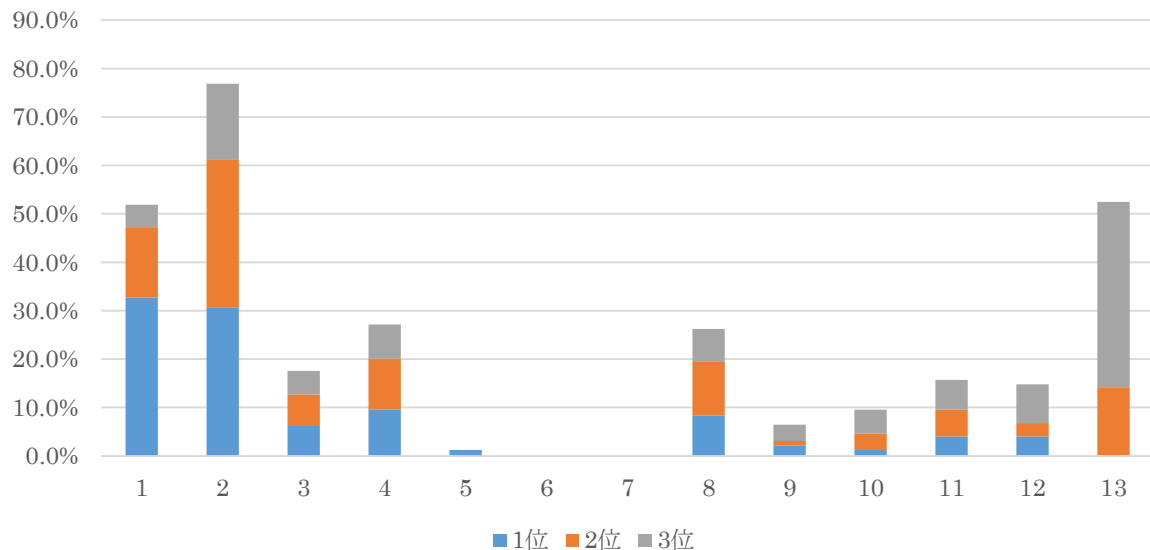
1位	1米	2露地野菜	3施設野菜	4果樹	5肉用牛	6酪農
	106	99	20	31	4	0
割合	32.7%	30.6%	6.2%	9.6%	1.2%	0.0%
	7養鶏	8花き	9菌茸類	10山菜類	11加工食品	12その他
	0	27	7	4	13	13
	0.0%	8.3%	2.2%	1.2%	4.0%	4.0%

2位	1米	2露地野菜	3施設野菜	4果樹	5肉用牛	6酪農	
	47	99	21	34	0	0	
割合	14.5%	30.6%	6.5%	10.5%	0%	0.0%	
	7養鶏	8花き	9菌茸類	10山菜類	11加工食品	12その他	該当なし
	0	36	3	11	18	9	46
	0.0%	11.1%	0.9%	3.4%	5.6%	2.8%	14.2%

3位	1米	2露地野菜	3施設野菜	4果樹	5肉用牛	6酪農	
----	----	-------	-------	-----	------	-----	--

数	15	51	16	23	0	0	
割合	4.6%	15.7%	4.9%	7.1%	0.0%	0.0%	
	7養鶏	8花き	9菌茸類	10山菜類	11加工食品	12その他	該当なし
	0	22	11	16	20	26	124
	0.0%	6.8%	3.4%	4.9%	6.2%	8.0%	38.3%

問6 農業所得の販売金額の多い順

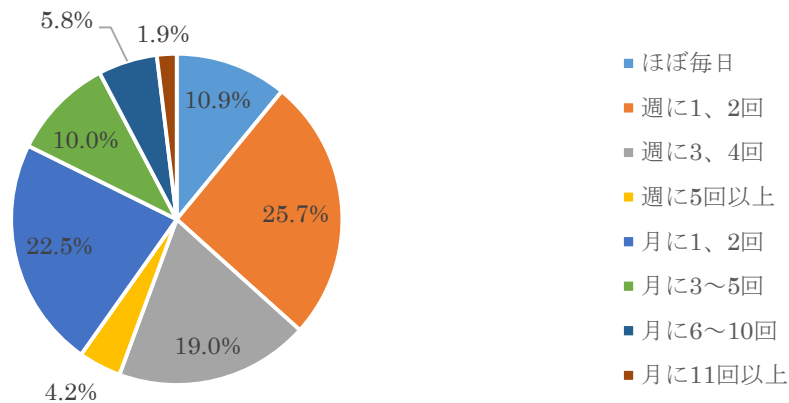


●問7あなたが産直市に出荷する頻度を教えてください。

出荷頻度 無回答 16
有効回答件数 311 件

出荷頻度	無回答	16					
有効回答件数	311	件					
ほぼ毎日	週に1、2回	週に3、4回	週に5回以上	月に1、2回	月に3～5回	月に6～10回	月に11回以上
34	80	59	13	70	31	18	6
10.9%	25.7%	19.0%	4.2%	22.5%	10.0%	5.8%	1.9%

問7 産直市に出荷する頻度



●問8産直市に出荷するようになってからの期間

出荷年数 無回答 13
有効回答件数 314 件

出荷年数(単位:年)	2880.8
平均	9.2

●問9産直市での年間売上を教えてください

年間売上額 無回答 22
有効回答件数 305 件

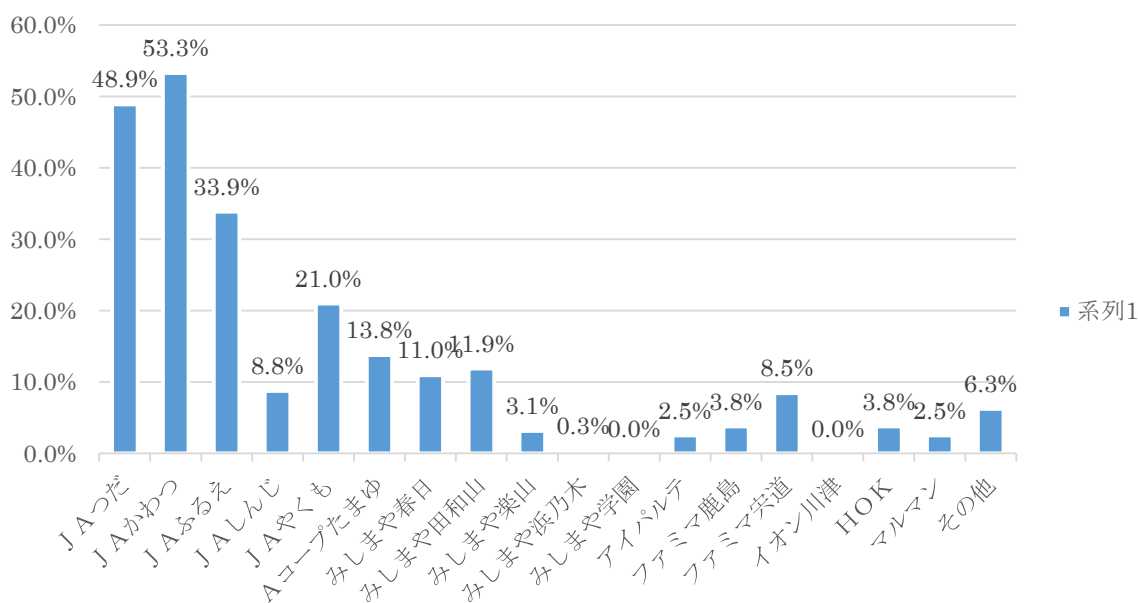
年間売上額合計(単位:万円)	19285
平均額(単位:万円)	63.2

●問10あなたが農産物を出荷している産直施設を全てお聞かせください

出店先 無回答 8
有効回答件数 319

	JAつだ	JAかわつ	JAふるえ	JALんじ	JAやくも	Aコープたまゆ
件数	156	170	108	28	67	44
割合	48.9%	53.3%	33.9%	8.8%	21.0%	13.8%
	みしまや春日	みしまや田和山	みしまや楽山	みしまや浜乃木	みしまや学園	アイパルテ
件数	35	38	10	1	0	8
割合	11.0%	11.9%	3.1%	0.3%	0.0%	2.5%
	ファミマ鹿島	ファミマ宍道	イオン川津	HOK	マルマン	その他
件数	12	27	0	12	8	20
割合	2.5%	3.8%	0.0%	3.8%	2.5%	6.3%

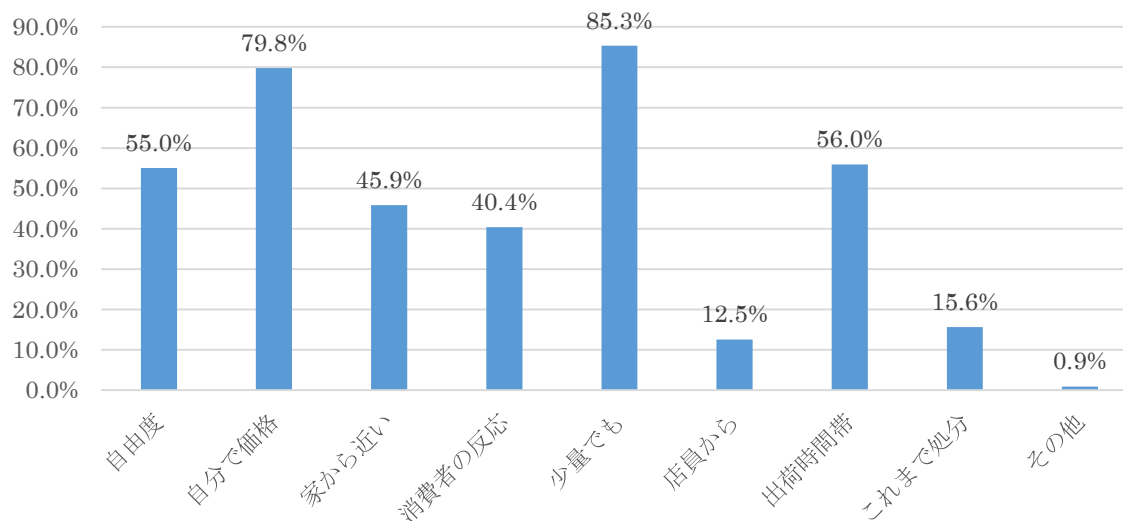
問10出店店舗



●問11あなたが感じる産直市場のメリットについてお答えください

	自由度	自分で価格	家から近い	消費者の反応	
件数	180	261	150	132	
割合	55.0%	79.8%	45.9%	40.4%	
	少量でも	店員から	出荷時間帯	これまで処分	その他
件数	279	41	183	51	3
割合	85.3%	12.5%	56.0%	15.6%	0.9%

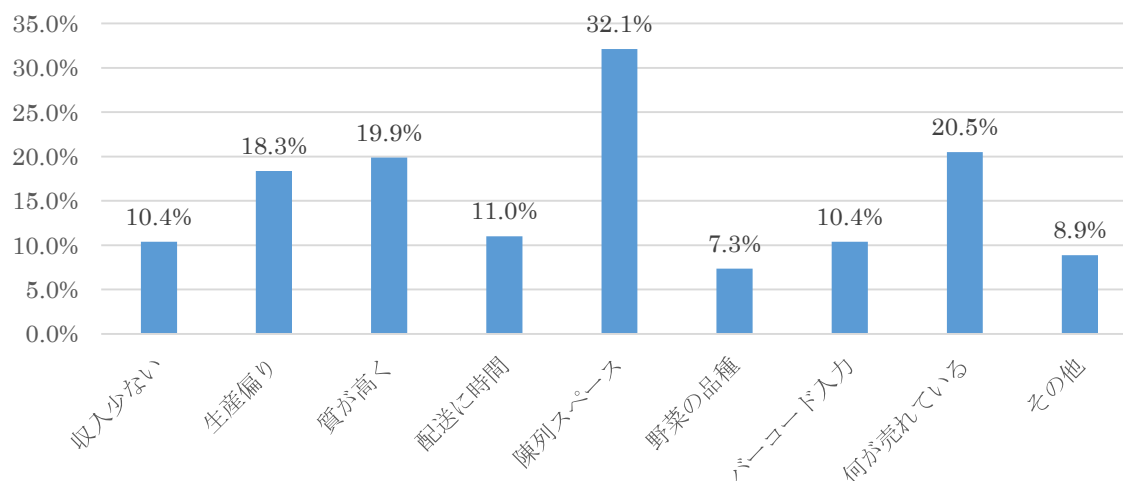
問 1 1 産直市場のメリット



●問 1 2 あなたが感じる産直市場のデメリットについてお答えください

	収入少ない	生産偏り	質が高く	配送に時間	
件数	34	60	65	36	
割合	10.4%	18.3%	19.9%	11.0%	
	陳列スペース	野菜の品種	バーコード入力	何が売れている	その他
件数	105	24	34	67	29
割合	32.1%	7.3%	10.4%	20.5%	8.9%

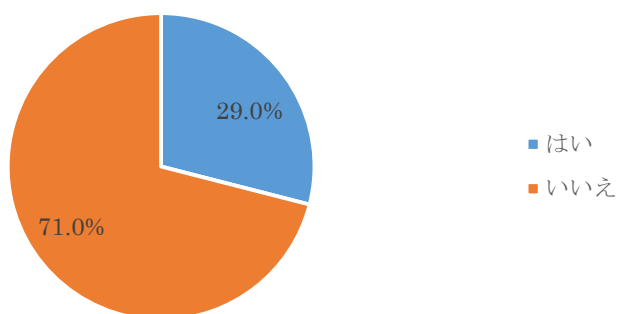
問 1 2 産直市場のデメリット



●問13産直市場(インショップ含む)の需要が増えた場合、生産拡大・品目数の増加が可能ですか

	無回答	20
有効回答件数	307	
増加が可能なか	はい	いいえ
	件数	218
	割合	71.0%

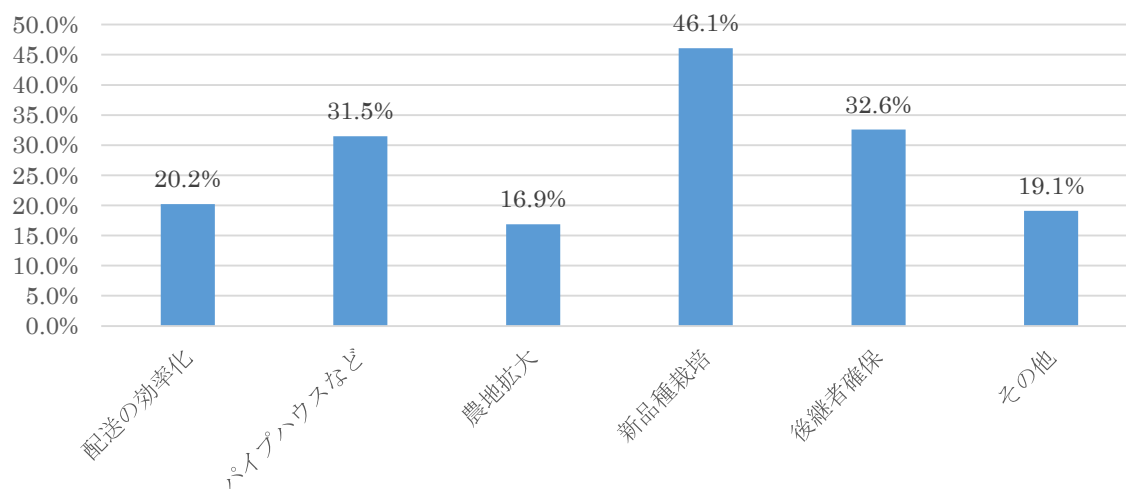
問 1 3 生産拡大が可能なか



●問14生産拡大に向けて必要なことは何ですか

	配送の効率化	パイプハウスなど	農地拡大	新品種栽培	後継者確保	その他
件数	18	28	15	41	29	17
割合	20.2%	31.5%	16.9%	46.1%	32.6%	19.1%

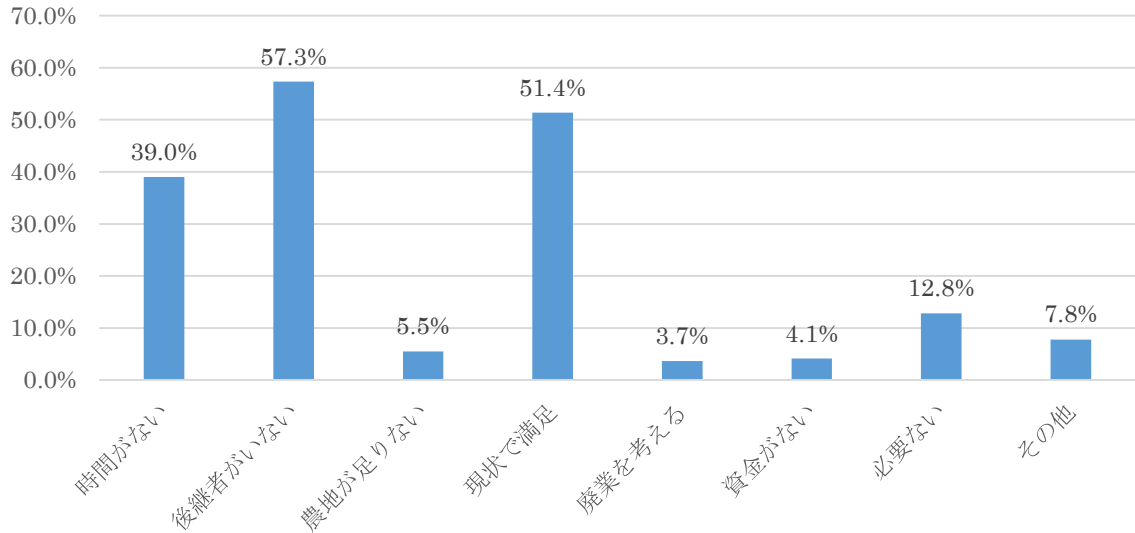
問 1 4 生産拡大に向けて必要なこと



●問 1 5 生産拡大に取り組めない(むずかしい)理由は何ですか

	時間がない	後継者がいない	農地が足りない	現状で満足	廃業を考える	資金がない	必要ない	その他
件数	85	125	12	112	8	9	28	17
割合	39.0%	57.3%	5.5%	51.4%	3.7%	4.1%	12.8%	7.8%

問 1 5 生産拡大に取り組めない理由

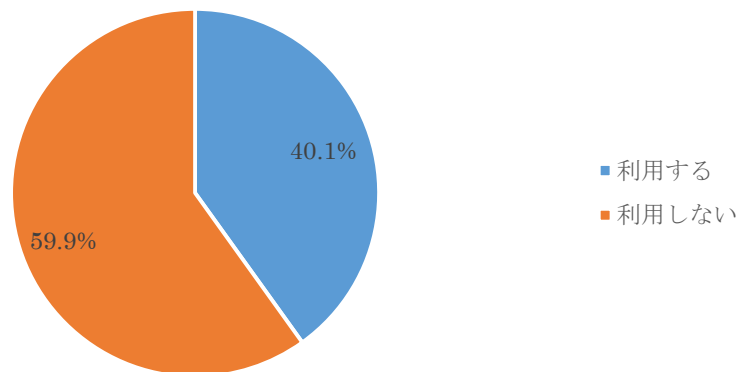


●問 1 6 複数店舗に配送している方にお伺いします。配送サービスがあれば利用しますか？

配送サービスについて 無回答 120
有効回答件数 207 件

配送代行サービスを	利用する	利用しない
件数	83	124
割合	40.1%	59.9%

問 1 6 配送サービスについて

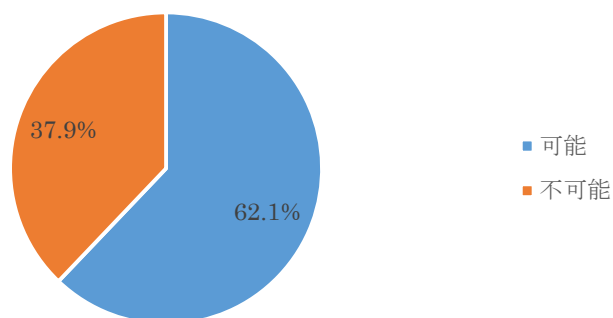


●問 1 7 インショップに出品している方にお伺いします。インショップは夕方から夜に向け品薄になる傾向があります。夕方の出荷は可能ですか？

夕方の出荷について 無回答 195
有効回答件数 132 件

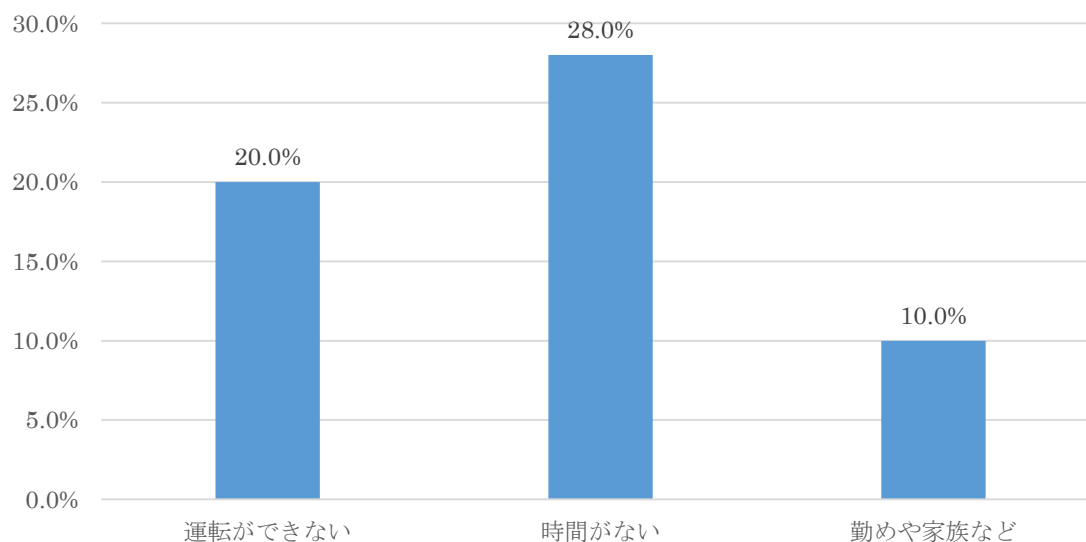
夕方配送について	可能	不可能
件数	82	50
割合	62.1%	37.9%

問 1 7 夕方の出荷は可能か



不可能の理由	運転ができない	時間がない	勤めや家族など
件数	10	14	5
割合	20.0%	28.0%	10.0%

問 1 7 夕方出荷が不可能の理由

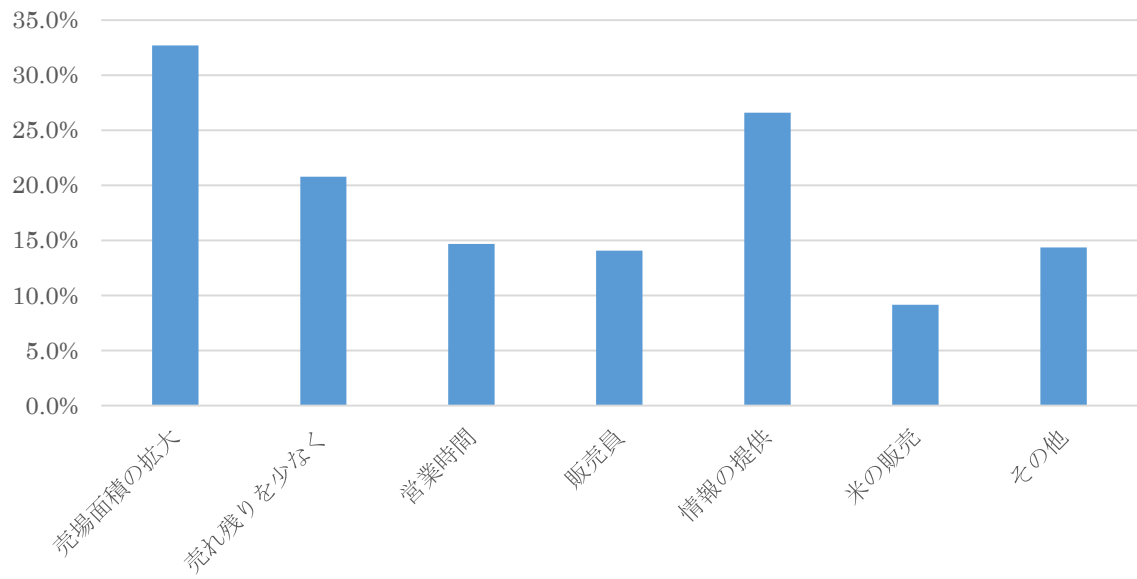


●問 1 8 産直市場の施設・運営について要望をお聞かせください

	売場面積の拡大	売れ残りを少なく	営業時間	販売員	情報の提供	米の販売	その他
--	---------	----------	------	-----	-------	------	-----

件数	107	68	48	46	87	30	47
割合	32.7%	20.8%	14.7%	14.1%	26.6%	9.2%	14.4%

問 1 8 産直市場への要望



調 査 票

調査場所	かわつ	つだ
あなたの年代を教えてください		
20代	30代	40代
50代	60代	70代以上
性別を教えてください	男性	女性

問1 産直市は、どれくらいの頻度で利用しますか。

- ほとんど毎日
- 2～3日に一度
- 1週間に一度
- 月に数回
- あまり行かない

問2 食品のお買い物は何時ぐらいにされることが多いですか。

- 朝一番（9時頃）
- 午前中（9時～12時頃）
- お昼頃（12時～14時）
- 夕方（16時～18時頃）
- 夜（18時以降）

問3 産直市までの移動手段を教えてください。

- 自動車
- 徒歩
- バスなどの公共交通
- 自転車

問4 産直市では一回のお買い物で平均してどのくらい買われますか。

- 500円未満
- 500円～1,000円
- 1,000円～1,500円
- 1,500円～3,000円
- 3,000円以上

問5 農産物や加工品を購入する際どのようなものを選びますか。

- 高くてもいいものを選ぶ
- どちらかといえば安いものを選ぶ
- 積極的に安いものを選ぶ

問 10 産直市にあれば良いと思う野菜・果物・加工品があれば具体的にお答えください

(いくつでも)

問 11 この産直市の満足度を教えてください。

鮮度 (大いに満足 満足 普通 やや不満 不満)

品揃え (大いに満足 満足 普通 やや不満 不満)

雰囲気 (大いに満足 満足 普通 やや不満 不満)

営業時間 (大いに満足 満足 普通 やや不満 不満)

ご協力ありがとうございました。

産直市場アンケート（出荷者用）

別紙2

該当するものに☑してください

問1 あなたの年齢を教えてください

30代以下 40代 50代 60代 70代以上

問2 以下のいずれに該当しますか？

専業農家 兼業農家（農業が主たる収入） 兼業農家（農業が従たる収入）

問3 日常の作業での労働力は何名ですか？（枠の中にご記入ください）

名

問4 現在経営している圃場面積についてお答えください（枠の中にご記入ください）

水田 a 畑 a 施設 a

問5 ハウス栽培の有無についてお答えください

あり なし

問6 現在の農業所得で販売金額の多い順に3つまでお答えください（枠の中に該当の数字をご記入ください）

- ①水稲 ②露地野菜 ③施設野菜 ④果樹 ⑤肉用牛 ⑥酪農
⑦養鶏 ⑧花き ⑨菌茸類 ⑩山菜類 ⑪加工食品
⑫その他

1位	2位	3位
----	----	----

問7 あなたが産直市に出荷する頻度を教えてください。

ほぼ毎日 週に___回くらい 月に___回くらい

問8 あなたが産直市に出荷するようになってからの期間をご記入ください。

約 年

問9 産直市での年間売上を教えてください

約 万円

問10 あなたが農産物を出荷している産直施設を全てお聞かせください。(該当するもの全てに☑してください)

JAグリーンショップ つだ
 かわつ
 ふるえ
 しんじ
 やくも

Aコープたまゆ

みしまや産直コーナー 春日店
 田和山店
 樂山店
 浜乃木店
 学園店

アイパルテ

ファミリーマート 鹿島
 穴道

イオン川津店

HOK

マルマン

その他 産直市場名 _____

問11 あなたが感じる産直市場のメリットについてお答えください(該当するもの全てに☑してください)

自由度が高い
 自分で価格を決められる
 家から近い
 消費者の反応が直接分かる
 少量でも出荷できる

- 店員からの技術指導が受けられる
- 出荷時間帯の制限が無い
- これまで処分していたものを出す事ができる
- その他 _____

問12 あなたが感じる産直市場のデメリットについてお答えください(該当するもの全てに☑してください)

- 収入が少ない
- 生産(出荷)が偏り、売れ残りが多い
- 質が高くないと売れない
- 配送に時間がかかる
- 陳列スペースが小さい
- 野菜の品種を表示できない
- バーコード入力が面倒
- 何が売れているかなど情報が少ない
- その他 _____

問13 産直市場(インショップ含む)の需要が増えた場合、生産拡大・品目数の増加が可能ですか

- はい いいえ

問13で「はい」とお答えになった方に伺います。

問14 生産拡大に向けて必要なことは何ですか(該当するもの全てに☑してください)

- 配送の効率化
- パイプハウスなどの施設の増設等整備
- 農地の拡大
- 新品種栽培のための研修など農業指導の充実
- 後継者の確保
- その他 _____

問13で「いいえ」とお答えになった方に伺います

問15 生産拡大に取り組めない(むずかしい)理由は何ですか(該当するもの全てに☑してください)

- 時間がない
- 後継者がいない
- 農地が足りない

- 現状で満足している
- 廃業を考えている
- 資金がない
- 今でも全てを出荷している訳ではないので必要ない
- その他 _____

問16 複数店舗に配送している方を対象として、拠点施設を中心とした配送を代行するサービスを検討しています。配送サービスがあれば利用しますか？

- はい
- いいえ

問17 インショップに出品している方にお伺いします。インショップは夕方から夜に向け品薄となる傾向があります。夕方の出荷は可能ですか？

- はい
- いいえ（理由 _____）

問18 産直市場（インショップ含む）の施設・運営について要望をお聞かせください。（該当するもの全てに☑してください）

- 売り場面積の拡大と陳列の見直し
- 売れ残りを少なくしてほしい
- 営業時間の延長
- 販売員の能力アップ
- 売れ筋商品や、店舗ごとの販売状況など情報の提供
- 米の販売
- その他 _____

ご協力ありがとうございました